

空 楽 々

「
555
」

2015
秋



攻略・空デテキスト課題

2015年度も後期に突入しました。
当初の履修計画通りに着実に進めている方も
いれば、仕事などの都合でなかなか進まない
という方もいるかと思います。また、スクー
リングは予定通りだけど、テキスト課題は・・・
そこで、今回は2月の最終締め切りまでの過
ごし方をちょっとだけ特集してみました。



PART1 スケジュールを押える

専門のテキスト（作品）課題は毎月25日が提出期日とな
っていますが、後期は1月の提出日が無く、その次の提
出日は2015年度の最終締め切りである2月10日とな
ってしまいますので、注意が必要です。

特に、3年次配当となっている二つのテキスト科目（空
間演出デザイン演習Ⅲ-1、空間演出デザイン演習Ⅲ-2）は、
それぞれ企画編（第1課題）と制作編（第2課題）の2課
題からなっており、第1課題を合格しないと第2課題を提
出できず（同時提出不可）、また、同じ年度内に合格しな
くなくてはならない単年度履修ですので、第2課題を2月の最
最終締め切りまでに合格するためには、今後のスケジュール
をしっかりと押えておく必要が有りますね。

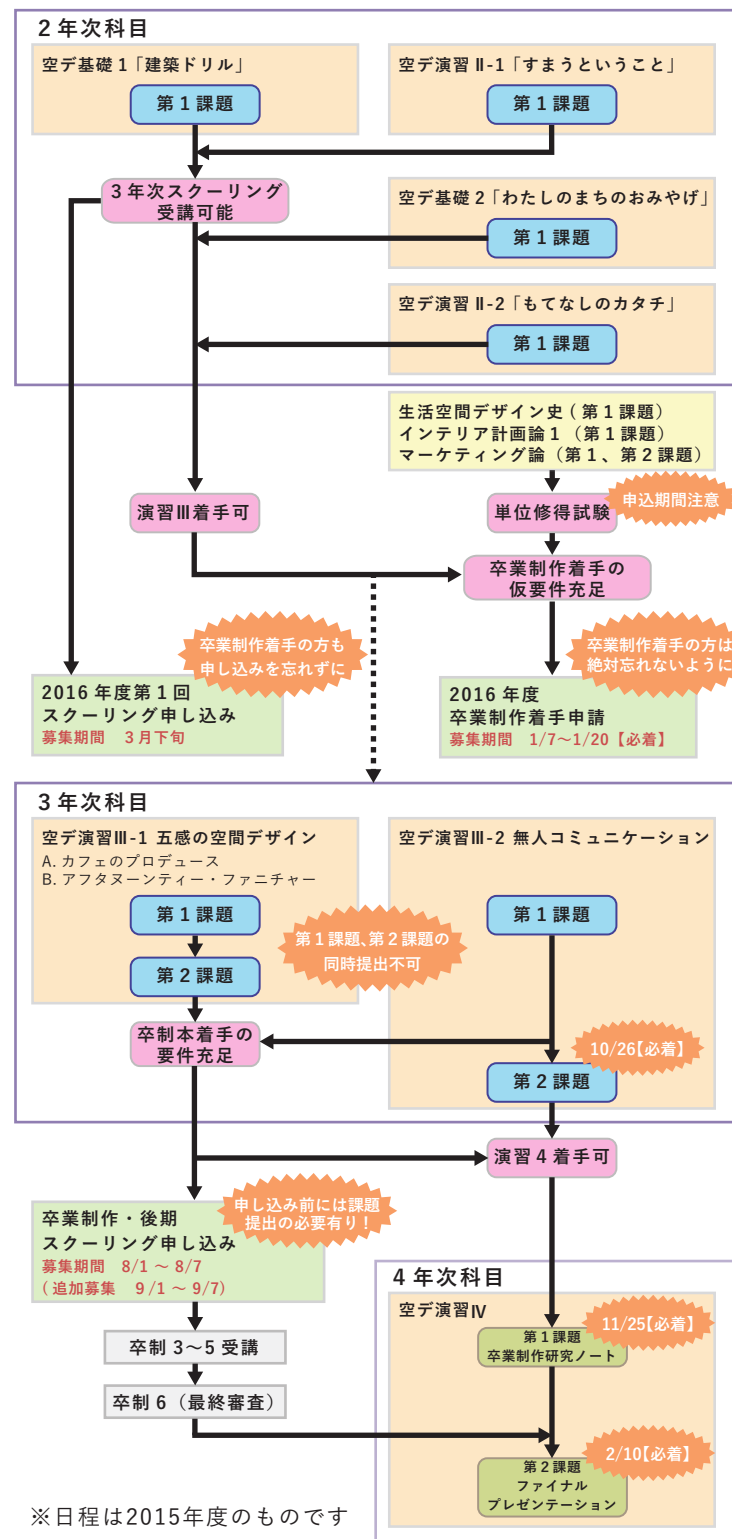
両方の課題ともボリュームがありますので、3年次編入
で2年間で卒業するのであれば、卒業制作時期とかぶって
しまうことも考慮し、早めに着手しておくのが懸命です。
右図に示すように、卒業制作の後期スクーリングと3年次
／4年次テキスト課題とは、スケジュールが密接に関係し
ているので、提出締め切り日を意識しながら（再提出にな
ることも勘案して）学習を進める必要があります。

また、3年次編入で二年間で卒業を目指している方で、
かつ3年次スクーリングを東京だけで受講したいと考えて
いる方は、初年度で空間演出デザイン基礎1と空間演出デ
ザイン演習Ⅱ-1までを年度内で合格しておく必要があります。
というのも、東京で開講する3年次スクーリングを全
て受講するには、年度最初の第1回スクーリング申込期間
（3月下旬）で受講申し込みをする必要があるからです。

更に卒業制作の仮着手要件を満たすには、空間演出デザ
イン基礎2と空間演出デザイン演習Ⅱ-2を合格しておくこと
ともに、学部共通専門教育科目の「生活空間デザイン史」
「インテリア計画論1」「マーケティング論」も合格して
おく必要があります。学部共通専門教育科目はレポートを
提出すれば終わりではなく、単位修得試験を受験しなければ
ならず、その申込期限までに所定のレポートを提出して
おかなければならないという条件があります。

シラバスの履修条件図とともに、各科目の履修条件を再
確認して考慮漏れがないようにしましょう。

また、スクーリング・単位修得試験（卒業制作着手申請
も）の申し込み忘れや、テキスト課題提出時に不足がない
か、注意しましょう。締め切り厳守です。なお、提出課題
で不備返却となっても締め切りが延長する訳ではありません
ので、締切間際の送付で不備返却とならないように。



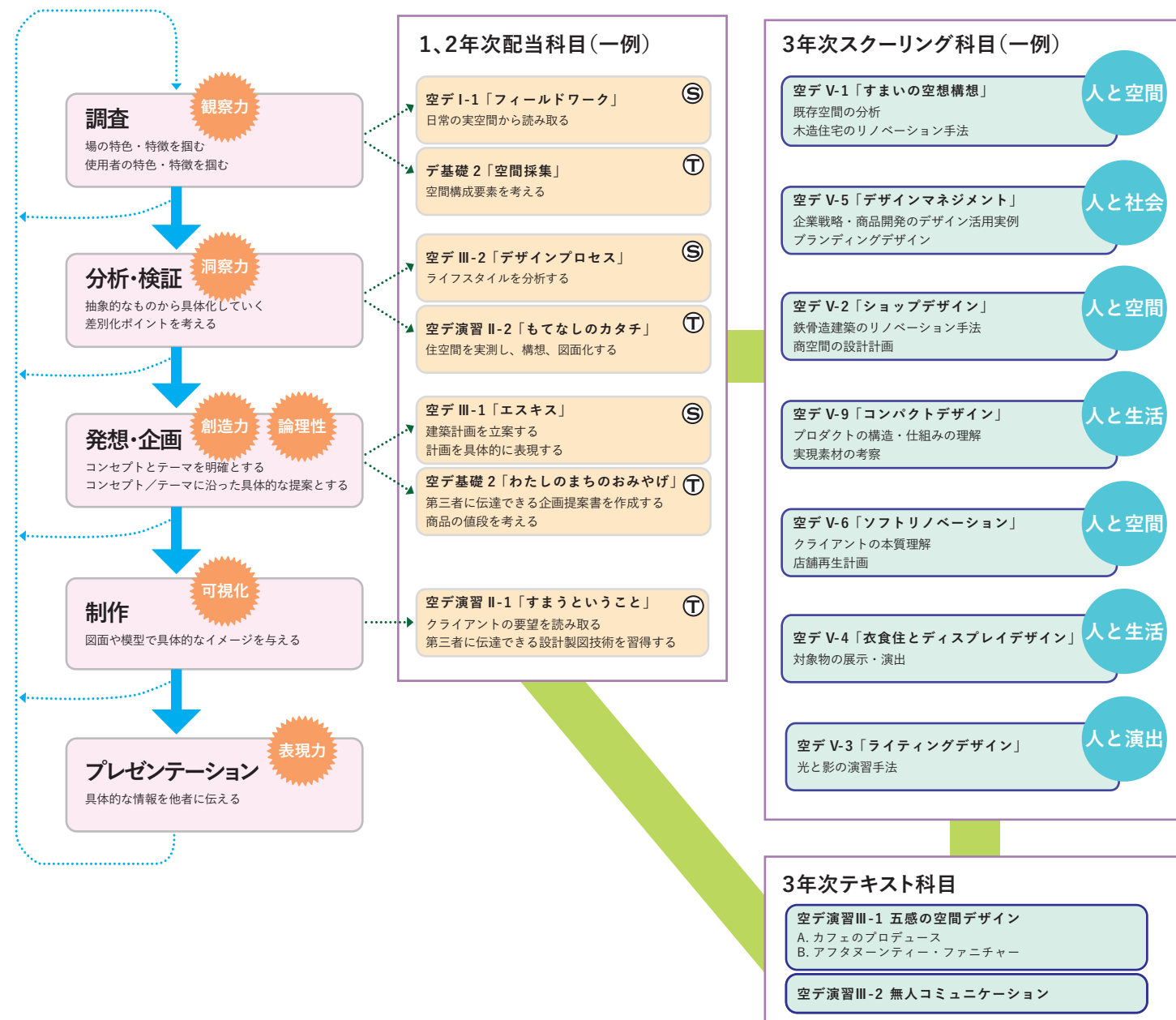
PART2 点は線に —課題は連鎖する—

テキスト科目はステップアップ方式なので、1・2年次
で基礎力をつけてから、3年次で専門性が高い、応用力が
求められる課題に着手することになります。

シラバスの各科目説明にはその課題での提出物の説明や
そのための制作条件だけではなく、その課題の目的や到達
目標が書かれていますが、1・2年次のテキスト科目、あ
るいはスクーリング科目については、その科目が特にどの
基礎力を習得してほしい科目なのかも記載しています。

本編集部の観点で、課題制作のプロセスを調査、分析、
発想・企画、制作、プレゼンテーションとした場合に、どの
科目でどの基礎力を主に養って欲しいのかを対比させてみ
たのが下の図になります。

課題内容が今まで取り組んだことが無い内容でも、基本
的には1・2年次の積み重ねですので、悩んだら1・2年
次のテキスト・スクーリング科目でどのように取り組んだ
か、立ち戻ってみるのはどうでしょうか。



PART3 悩んだら...

テキスト科目を自宅で独りで取り組んでいると、疑問点
が生じて先に進めなくなるケースが有ると思います。

そんな悩みが出たら、まずはシラバスを読み返してみ
ることです。どうしても解決出来ない場合は、大学への質問
や教員相談、オープンゼミを活用してみてください。質問・
相談の仕方は学習ガイドの「6 学習支援」を確認しまし
ょう。先輩・友人への質問・相談も有効な手段です。airUの

コミュニティ以外にも一般のSNSを学生同士のコミュニ
ケーションツールとして活用している方も多数います。

また、学習会という形で、学生たちが自主的に集まり、
皆で課題に取り組むというケースもあります。

質問を送付するのも、相談に行くのも面倒という場合は、
曖昧な状態で課題を提出して添削コメントを入手すること
で質問票代わりになってしまうという「荒技」もあります!?

空デ在校生・学習会報告

— 空デおもてなし学習会



1、2：一心不乱に作業中？
3：ワークショップ終了後に川端さんから一言
4：制作したスプーンについての想いを語って頂きました
5：スプーンとともにアイスクリームが皆さんの元へ



おもてなしを考える 「スプーンを作ろう」 開催日：2015年7月18日（土）～19日（日）

二日間に渡る学習会では、滋賀県に足を延ばして、守山市の佐川美術館と甲賀市信楽町のミホミュージアムでの展覧会観賞（佐川美術館では茶室見学も）や、同じ信楽町の文五郎倉庫を訪問して設計者の上田篤先生の解説を聞くなど、空間演出についての見識を深めるとともに、木工作家で、空デコースの在校生でもある川端健夫さんの主宰する「gallery-mamma mia」（甲賀市甲南町）にて、スプーン作りのワークショップを行いました。

普段扱う事が無い電動工具や各種のやすりなどの道具を駆使して角材から各自がデザインしたスプーンを生み出したあとは、パティシエでもある川端さんの奥様手作りのアイスクリームを自らのスプーンでいただきました。

どのようなシーンで使うのか、そのためにはどのような形状にするかを事前課題としてデザインし、それを実際に作り上げるという一連の流れを経て生まれたスプーンは、全く同一の形が無い個性溢れる「作品」となりました。

素晴らしい時間にご協力いただいた川端さんご夫妻にこの場を借りて感謝を申し上げます。

日常の空間を魅力的にきりとり

開催日：2015 年 8 月 22 日（土）

8 月には瓜生山キャンパスにて、写真に関する学習会を開催しました。これは、4 月に鳥取で二日間に渡って開催した学習会をステップアップする形で実施されました。

この学習会では、4 月の学習会で鳥取砂丘を舞台に撮影した写真の中からベストショットを自ら選定し、その写真を額装して当日持ち寄るということと、「もしも私が『雲母』の表紙を担当したら」と題して、自分なりの視点で学内の撮影を行い、写真を選定するという内容となっており、写真コースの勝又久仁彦先生をお招きして、それぞれの写真についての講評をいただきました。なお、当初はどの写真が『雲母』の表紙としてのベストショットなのかを勝又先生にセレクトしていただく予定でしたが、力作揃いで選べないという状況となってしまいました。

写真の撮影方法や画像データの後処理に関するコメントは勿論ですが、プリントの方法から額装におけるマット紙の扱い方まで様々な視点からのコメント・アドバイスをいただきました。

写真という平面の中で、どのように空間を捉えて、表現するか（＝他者に見せるか）を考える一日となったようです。

また、この学習会では、サイバーキャンパス等での告知で行われた「UEDA-CHO 作品人気投票会」の結果発表が行われ、64 名の KUDE 生による投票の結果、卒業生の岡本さん、在校生の姜さの作品が同点一位となり、勝又先生、上田先生を含めた学習会参加者から祝福されました。受賞作品はサイバーキャンパスに掲載されていますので、是非ともそちらで確認ください。



11



6：学習会のプログラム説明
7、8：作品講評中の勝又先生
9、10：午前中は学内での撮影
11：撮影後、表紙にレイアウトした写真をみんなでチェック



12：完成した作品を並べてみました
13：ワークショップ開始前に酒井先生からレクチャー
14、15：制作中のコマ
16：参加者みんなで記念撮影

あけてびっくりおもちゃ箱 CHIMASKI 酒井先生と創造力に チャレンジ！

開催日：2015 年 9 月 26 日（土）

9 月は通学部 空間演出デザイン学科の酒井洋輔先生を迎えて、「造花で身につけられるジュエリーを作る、可愛いものを作ろうとしない」というテーマのもと、ジュエリー制作の学習会を開催しました。酒井先生は CHIMASKI というジュエリーブランドを展開するとともに、各地で多くのワークショップもされているそうです。

学習会当日は通学部ジュエリーデザインコースの岡崎希さんにも協力頂き、参加した 18 名が、CHIMASKI の目指す「身近なもので誰もみたことのない素敵な世界を生み出す」という創造の世界に挑み、作品制作を通じてその意味を体感した一日になったとのことでした。

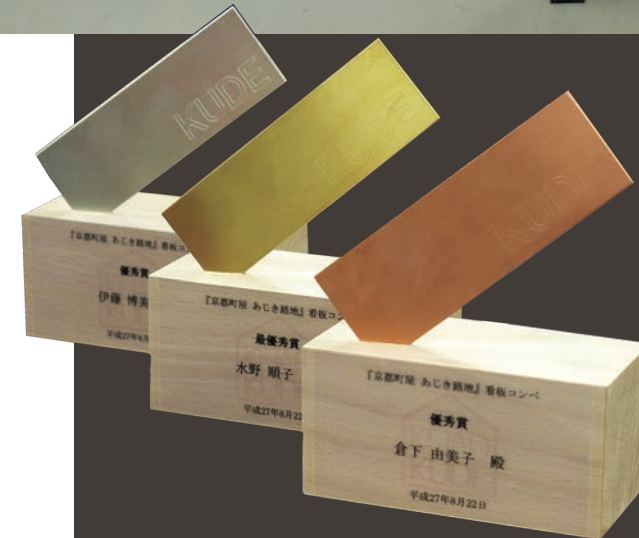
【参加者の感想から】

- ・学習会中、一ミリも助け舟を出してもらえなかったことが印象的でした(笑。でも、そうすることで、そして仲間の作品をみることで、一歩新しい世界に踏み出せた気がしています。
- ・久々に大学に行く機会になり、勉強もし、刺激すぎました。楽しかったです。
- ・人は年を重ねるごとに固定観念を頼りにする傾向があるように思えます。そして良くも悪くも刺激を求めなくなります。このままではコンフォートゾーンから出られなくなりそうだなと思うこともしばしば、そんな折々に学習会を企画していただけて刺激のある学生生活をおくる事ができています。
- ・酒井先生の話聞いたことは、本当に今後の人生が変わったなと思いました。昨日の内容を、どれだけかかるかわからないけど自分なりに解釈できたらいいなと思います。

空間演出デザインコース主催 『京都町家 あじき路地』看板コンペ

京都町家あじき路地と空間演出デザインコース主催の「『京都町家 あじき路地』看板コンペ」に応募作品の中から、水野順子さんの案が見事最優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。8月22日には京都瓜生山キャンパス内で授賞式と寺尾文秀先生の実施設計・制作により完成した看板のお披露目が行われました。授賞式には、スクーリングや学習会の学生だけでなく、依頼主である安食弘子さん、盛夫さんご家族も出席され、皆で受賞と看板の完成を祝いました。また、あじき路地への設置式が9月22日に行われ、安食さんご家族とともに、水野さん、寺尾先生、上田先生が参加し、晴天のもと、無事にあじき路地の入口に看板が設置されました。

あじき路地は、今年「京を彩る建物と庭園」と「京都市景観賞(建築部門)」の優秀賞に選ばれましたが、今までは場所が分からない、分かりづらいという言葉も有ったそうですので、この看板が訪問者への大きな手助けとなることでしょう。



京都町家 あじき路地
京都府京都市東山区大黒町通松原下ル2 丁目山町284

あじき路地は、明治時代末期に建てられた築100年ほどの町家長屋です。長年空家だった長屋を大家さんが「ものづくりなどを頑張っている若者に使ってほしい」と、2004 年春に入居者を募集したのが始まりとのこと。現在は、職住一体となった工房やショップ、ギャラリーとして若いクリエイター・職人達に利用されています。一般の方に開放されている路地ですが、入ったり通ったりする際は、周辺の住人の方にご配慮頂きながらお歩きくださいとのこと。 (<http://ajikiroji.com> を参考とさせていただきました)



空デエクスカーション2015

今年度の「空デエクスカーション」は下記の日程で開催します。

■関西

- 日時：11月3日（火・祝）10：00～16：00、雨天決行（注意事項参照）
- 集合場所：京都駅／塩小路通側・1階 JR中央改札口前に10時集合
- 持参物：昼食代、飲み物、学生証、健康保険証、カメラなど
- 参加予定教員：上田篤、寺尾文秀、出口春菜、他
- 参加申込締切日：10月27日（火）
- 内容：東山エリア散策など



昨年度の関西の一コマ（京都・東福寺）

■関東

- 日時：10月25日（日）10：00～16：00、雨天決行（注意事項参照）
- 集合場所：JR中央本線「東小金井」駅東側改札口付近に10時集合
- 持参物：昼食（集合場所にコンビニあり）、飲み物、学生証、健康保険証、現地交通費（300円程度）、入園料（320円）、カメラなど
- 参加予定教員：川合健太、春日部幹、森勝、他
- 参加申込締切日：10月18日（日）
- 内容：江戸東京たてもの園見学など
※当日は芸術教養学科の皆さんも一緒に予定。



昨年度の関東の一コマ（軽井沢タリアセン）

■それぞれの日程での行程詳細については、サイバーキャンパスを確認してください。

■申込方法

参加希望の方は、開催日の1週間前までに件名を「空デエクスカーション参加」とし学籍番号、氏名、どちらの開催地で参加希望かを明記の上、空間演出デザイン研究室宛にメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）にてお申し込みください。

■注意事項（関西・関東共通）

- ・ある程度の距離を歩きますので、歩きやすい靴と温度調節しやすい服装で参加してください。
- ・当日の午前8時の時点で【関西】京都・亀岡地区内の京都市、【関東】東京都多摩北部内の小金井市に警報発令など荒天の場合は開催中止とします。判断がつかない時などは、申し込み後に返信するメールに記載の緊急連絡先に電話をしてご確認ください。

空間演出デザインコース特別講義2015

今回の空デ特別講義は、飯石藍さんに「空間プロデュース」についてお話しいたします。空間プロデュースとは、空間の「可能性」を発見することから始まると思います。既存の空間の今までと違った使い方、新しい役割などを見つけ出すこと。次に、そのビジョンを「実現」するために、オーナーやユーザー、デザイナーや職人などとコラボレーションする体制をつくりだすこと。空家リノベーション、路上マーケットからマラソン大会まで様々な実例をもとに、空間の仕事に関わる楽しさや難しさを実感できる機会となるでしょう。

- 日時：11月21日（土）18：00～19：30
- 会場：東京外苑キャンパス（教室は当日掲示します）
- 講師：飯石藍さん（ナビゲーター：春日部幹先生）



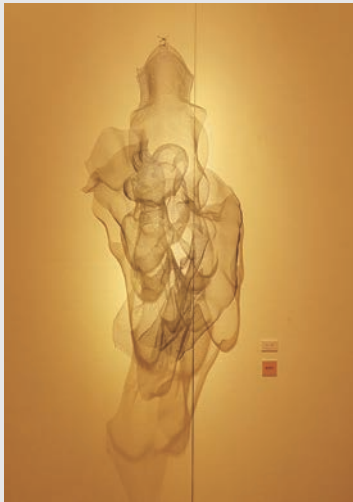
プロフィール

1982年生まれ。行政向けのコンサルタント、企業CSRの企画や全国のNPOの経営支援、企業とのコラボレート推進等を手がけるベンチャー企業を経て2013年に独立。暮らしを豊かにするプロジェクトの「伴走者」として様々なプロジェクトの企画運営を手がける。現在は、走って食べて楽しむマラソン「東北風土マラソン」、公共施設・公共空間の活用についてのポータルサイト「公共R不動産」、空き物件の活用を考える実践型スクール「リノベーションスクール」の全国展開支援等に関わっている。また、地元豊島区では街の面白い人を掘り起こし紹介するトークイベント「としま会議」や、23区で初めて公道を活用したグリーン大通りでのマルシェ「GRREN BLVD MARKET」の企画運営に関わっている。



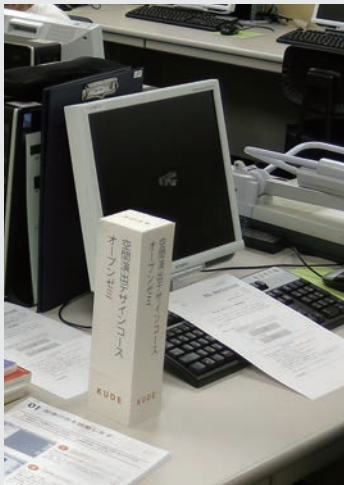
23区ではじめて公道を活用した社会実験「GREEN BLVD MARKET」（2015年5月～6月、池袋グリーン大通りにて毎週末開催）

卒業生受賞報告



「第6回 京都造形芸術大学通信教育課程卒業生・修了生 全国公募展」が8月9日から8月22日まで開催されました。今年のテーマである「満眼聞声 満耳見色（まんげんもんしょうまんにけんしき）」への応募作品の中から「コンペ部門」、「ポスターセッション部門」そして「箱deアンパン部門」合わせて70点が今回の展覧会に出品され、「コンペ部門」にて、空間演出デザインコースの鈴木陽規さんの作品『“本質を捉える”とは、ということなのか無垢な心で（胎児）』が優秀賞を受賞されました。鈴木さんは、二度目の優秀賞の受賞で、しかも過去6回の公募展を通してデザイン科唯一の入賞者となります。おめでとうございます。今後の作品も期待しております。

KUDEオープンゼミ



オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

- 日時：10月17日（土）17：00～19：00
11月14日（土）17：00～19：00
12月19日（土）17：00～19：00
- 会場：瓜生山キャンパス人間館1階ラウンジ
- 担当教員：上田篤、寺尾文秀他（予定）

■東京

- 日時：10月25日（土）空デエクスカーション内で開催
11月22日（土）17：00～19：00
12月6日（土）12：00～14：00
- 会場：東京外苑キャンパス1階エントランスホール
- 担当教員：川合健太、他（予定）

※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。

※日程・会場が変更となる場合がありますので、サイバーキャンパスで事前に確認してください。

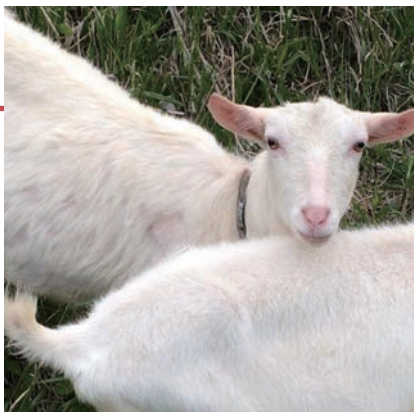
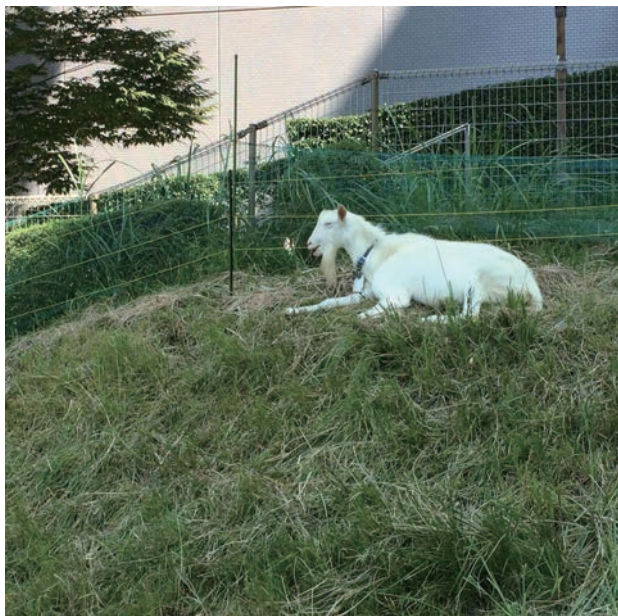
編集室から



実りの秋となりますように

●今回の表紙では、卒業生・修了生全国公募展とともに真夏のイベントとして開催された瓜生山親睦会での一コマを掲載させていただきました。受賞者の鈴木さん、田村先生、上田先生、そして本コースと縁の深い大野木副学長の乾杯シーンです。大野木副学長が鈴木さんの受賞を大変喜ばれていました。●皆さんの手元に案内が郵送されていると思いますが、通信教育部の秋の恒例のイベントである「秋の収穫祭」の募集が始まっています。小田原の回（11月1日）は既に募集者多数で締め切りとなっていますが、11月22日（日）奈良県吉野郡吉野町（金峯山寺）、11月28日（土）香川県丸亀市（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館）の開催については、引き続き参加申し込み受付中とのことですので、興味の有る方はいかがでしょうか。サイバーキャンパスでも募集要項が提示されています。●前回に引き続き学習会を取り上げさせていただきましたが、いろいろなテーマを持って積極的に活動されています。写真提供いただいた水野順子さん（あじき路地での写真も）、ありがとうございました。

草っ原にヤギがきた



もてなし時間

昨年、家の近くの草っ原に除草実験のために二匹のヤギが放たれた。

その日からヤギを眺めるのがわたしの日課になった。

ヤギにも好き嫌いがあって、ススキのような草は食べないらしい。でもそれ以外なら、昼夜を問わずなんでもむしゃむしゃ食べる。時々日除けのテントで休みながら、ヤギはいつでも同じ様子で、同じテントで草を食んでいる。

初夏、子ヤギが二匹産まれた。小さなヤギは耳が大きく垂れ下がり、とても可愛らしかった。子ヤギがメエと鳴くと、親ヤギがメエと応える。親ヤギだけだったときには鳴かなかったのに、ああやってお互いの存在を確認しながらコミュニケーションをとっているんだ。親子は声を響かせながら草を食んでいた。

秋になり、子ヤギの一匹が死んだ。悲しくて、わたしはいつもヤギについて投稿しているFacebookには、そのことが書けなかった。でもヤギたちはとくにかわった様子もなく、相変わらずいつものテントで草を食んでいた。

ただの草っ原だった場所に三匹のヤギがいるということは、通りかかる子どもやお母さんやお父さん、おじさんおばさんが、歩く速度を変えるってことだった。

夜中に通りかかったときには、暗闇でサラリーマンがヤギをじっと眺めていた。少し離れたベンチから見ていたら、サラリーマンは一〇分ほどヤギをみつめて帰っていった。深夜に草を食べるヤギを見つめているなんて、あひとは疲れているんじゃないかしら、と、深夜に草を食べるヤギとサラリーマンを見ているわたしは思った。ヤギがいるって、そういうこと。

わたしはヤギの除草効果なんてことには関心がない。ただ、できるだけ長い間、あの場所で草を食んでいてほしいと願っている。そのためには、そうか、ヤギには一定の仕事をしてもらうほかはない。

文・写真

二〇一三年度卒業生 竹内知穂